



Blizzard of Ozz

オジー・オスボーン
†プリザード・オブ・オズー血量られた英雄伝説~

SHINKE MUSIC PUB.CO.LTD.

Contents

I DON'T KNOW ► 5

[BL

CRAZY TRAIN 20

GOODBYE TO ROMANCE ≥ 32

DEE ► 40

SUICIDE SOLUTION ▶ 42 自殺志願

MR. CROWLEY ▶ 54 ミスター・クロウリー(死の番人)

NO BONE MOVIES ► 66

REVELATION(MOTHER EARTH) > 78 天の黙示

STEAL AWAY(THE NIGHT) ▶ 94 スティール・アウェイ

I DON'T KNOW

アイ・ドント・ノウ

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

「79年にブラック・サバスを脱退したオジー・オズボーンは、元レインボーのボブ・ディズリー(B)、元ユーライア・ヒープのリー・カースレイク(Dr)、元クワイエット・ライオットのランディ・ローズ(G)と共に、80年アルバム『ブリザード・オブ・オズ』を発表し、ソロ活動、というよりも自己のバンドとしての活動の第1歩を歩み始めた。そしてこの曲はそのアルバムの記念すべきオープニング・ナンバーとして、現在も尚、オジーのステージの重要なレパートリーとなっている。また、このアルバムによって、ランディ・ローズはその才能を開花させ、数々の名曲が生み出された。ギターだが、回のリフは5弦開放のA音をペダル・ポイントとしている。右手をブリッジにあてるミュートをして攻撃的なサウンドにしよう。 回4小節目にでてくるクォーター・チョーキングは、半音より下のチョーキングである。CD

等で微妙な音程を確認して、チョーキング・ポイントを探そう。
⑥はクリーン・トーンのサウンドだ。Gt.2では、3連符等速弾きっぽいフレーズがあるので、正確なピッキング&フィンガリングが必要だ。ランディは割と規則的なフレージングを活用するので、指使いは難しくないと思う。
⑥はソロだ。5、6小節目のトリルはアーミングを交えてみると、ランディっぽい音になるので試してみよう。
(決してヴァイのようにウネウネアーミングしてはいけない。)
⑥1小節目の上行フレーズは規則的なので、滑らかなフィンガリングが求められるので、注意。5小節目からの下行の横移動は、ラフにピッキングして勢いよくいこう。
№8小節目のオブリは雰囲気で弾こう。ランディはオブリをいれるクセがあるので、諸君も真似してみよう。ベースはタイトに。



© 1980 by BLIZZARD MUSIC LIMITED Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

























.



















Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

リング中心のソロだ。スピーディーではあるが規則的なフレースばかりなので、必ずやマスターできるはずであるので、がんばって練習してほしい。ランディのソロはかなり計算されているので、音楽的にも高く、ギター以外の音楽理論などにも役立つと思うので、よく研究してほしい。ベースだが、シンブルであるが、要所要所をタイトに弾いている。常にリズム・キーブの役割をしているので、かえって難しいかもしれない。少しでもリズムが狂ってしまうと、この曲の緊張感がなくなってしまうので、気を付けよう。ドラムに関しても同様なことが言える。ハデなオカズは入らないが、徹底的なリズム・キーブは絶対条件なので、気を緩めずタイトな演奏をすることを心掛けよう。













 \exists

תווו בחווו בתחוב וווודו

Z













/ 1111

3

===







}

]







GOODBYE TO ROMANCE

グッバイ・トゥ・ロマンス

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

オジー・オズボーン独特の味のあるバラード・ナンバーだ。この曲では、オーバーダビングによって何本ものギターが重ねられている。スペースの都合上、Gt.1、Gt.2の2本にまとめてあるが、Gt.2はエレクトリック・ギターが2本、アコースティック・ギターが1本の、合計3本のギターによるユニゾン・プレイだ。Gt.1もソロとバッキングのオブリとは別のギターであるが、これはエフェクターなどを使って、ディストーション・サウンドとクリーン・トーンを切り替えれば、大丈夫だろう。 回からのバッキングはアルペジオ・プレイだ。 ランディはクラシックの要素をふんだんに取り入れているので、通常とは少し異なったコードの押さえ方をしている。あまり使われないコード・フォームであるが、音楽理論上、最も美しい響きと思われる押さえ方をしていると思うので、チェックしておこう。また、ラン

ディのスタイルはあくまでもクラシックなので、左手の指を立てて他の弦で弾いた音をミュートしてしまわないように気をつけて弾こう。所々聞こえるオブリのフレーズはハンマリングやブリングを使ったレガートなプレイなので、流れるように軽快に弾こう。 EDからはギター・ソロだ。派手なポジション移動はないが、これまたレガートなフレーズであるので、流躍にプレイしよう。この曲のテンポ自体がゆっくりめであるので、スピーディーなソロではないが、時折8、9連符が出てくるので、かなり速いプレイとなってしまう。 最初はゆっくりしたテンポで練習して、徐々にテンポを上げていこう。 規則的な運指なので、覚えてしまえばマスターは早いと思う。 ベース、ドラムはバラードであるので、走ったりしないようリズムをキープすることに気をつけてプレイしよう。

Bass



© 1980 by ESSEX MUSIC INTERNATIONAL, INC., New York, N.Y., U.S.A. and BLIZZARD MUSIC LTD., London, England Rights for Japan jointly controlled by TRO Essex Japan Ltd. and Watanabe Music Publishing Co., Ltd., Tokyo





 $\dot{\underline{\mathbf{U}}}$

つ 42

快 は

٣ か で で、

ラ と

目



Vocal

Other

Guitar I

Guitar II

Drums Bass

Vocal

Other

Guitar I

Guitar II .

Bass

Drums





 \exists

 \exists

1









Vocal

Other

Guitar I

Guitar II

Race

Jrume

.

:

٠

•





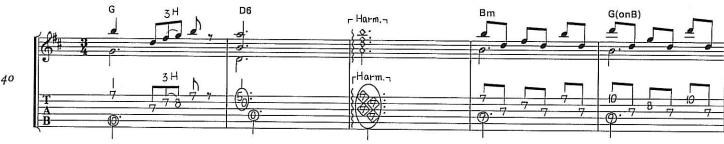


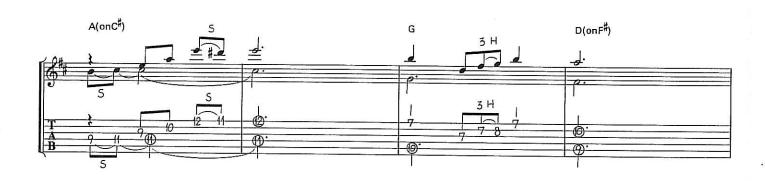
DEE

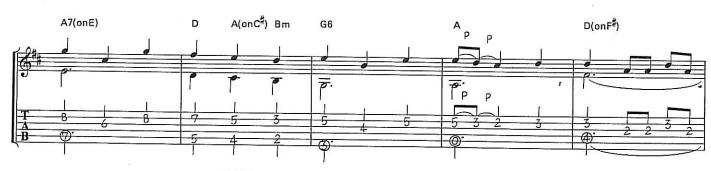
Music by Randy Rhoads

ランディ・ローズによるギター・ソロの曲だ。クラシック・ギ ターを熱心に練習していた彼の奏でるメロディーがとても美しい 曲だ。この曲では、コードの押さえ方は完全にクラシック・スタ イルにしてもらいたい。最初のGのコードは、ハイ・ポシション のフォームをそのまま押さえること。タブ譜に書いてあるところ だけを押さえても構わないが、本格的なクラシックの押さえ方で プレイする方が、ランディのスタイルであるので、是非チャレン ジレてほしい。3小節目のハーモニクスは、基本通りしっかり弾 かないとクリアにでないので気を付けよう。また、低音弦の音が

全音符である場合が多いので、低音弦のフレットを押さえたまま にして、高音弦の音を弾こう。22小節目に若干速いフレーズがあ るが、エレクトリック・ギターの時でもランディがよく使うフレ ーズであるので、問題はないはずだ。23、25小節目のフレーズは 流れるように弾こう。スライド気味にポジション移動をして、ス ムーズに弾きこなそう。クラシック・ギターを弾いたこともない 諸君は大変であると思うが、この曲をマスターすれば、多少なりと もクラシックのニュアンスを掴むことができるので、必ずマスタ ーしてもらいたい。







0 1980 by ESSEX MUSIC INTERNATIONAL, INC., Naw York, N.Y., U.S.A. Rights for Japan controlled by TRO Essex Japan Ltd., Tokyo



SUICIDE SOLUTION

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

ミディアム・テンポの少しへヴィーな曲だ。ギターのグリッサンド音からこの曲はスタートしているが、ここはピック・スクラッチを使ってもよいだろう。イントロから弾かれているギターのリフは、2本重ねてオーバーダビングされているものだ。これは、ほとんどユニソンによる演奏だがときどき違ったフレーズを弾いているので気を付けてもらいたい。リフとしては決して難しいものではないが単音とコードが入り乱れており、動きの激しいものとなっているので、力強いピッキングで正確にプレイしてもらいたい。この曲ではキーボードとしてオルガンも弾かれている。これはシンブルにコード弾きを行っているものだが、リズムをしっかりとギター等と合わせ、又音量を控えめにして邪魔にならない

演奏を心掛けるようにしよう。ギターは時々アームを使ってプレイしているようだが、これはあまり音程の変化が激しいものではないので、アームのついていないギターではネックを押し曲げるようにする、ネック・ベンドのテクニックを使って弾いてもよいだろう。国の11小節目で行われているスウィッチングのテクニックはピックアップのスウィッチを切り替えることで、音を断続的に鳴らすテクニックだ。ここは4分音符のリズムに合わせてスウィッチングしよう。ベースやドラムはシンブルなパターンを多くプレイしているようだ。どちらも力強い演奏をするようにしたい。ベースは8分音符をレガートではなく、少しスタッカート気味にして、歯切れの良いリズムで弾くとよいだろう。



© 1980 by ESSEX MUSIC INTERNATIONAL, INC., New York, N.Y., U.S.A. and BLIZZARD MUSIC LTD., London, England Rights for Japan jointly controlled by TRO Essex Japan Ltd. and Watanabe Music Publishing Co., Ltd., Tokyo

Vocal

Other

Guitar I

Guitar II

Bass

local

101

iitar I

itar II

Bass

Drums





プレ

では

げる

よい クニ を断

わせ

ター

5 J スタ



Unnal

ē

C

:





 \exists

 \exists





 \exists

.S.1.



,











 \equiv

=



Other

Guitar I

Guitar I

Race

Drume

Land







Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

荘厳なキーボードのフレーズが聴くもののテンションを高めていく、このアルバム屈指の名曲だ。キーボードは最低3本弾かれているので、メインに聞こえるパートを選択してプレイするのが賢明だろう。キーボードのいないバンドはここをカットして、前の曲とつなげていきなり入るという方法を取ると良いだろう。国から全パートが出てくる。ギターについてだが、かなり横移動の激しいポジショニングになっている。 実際はDmをロー・コードで押さえているかもしれないが、この方がライヴでは見栄えが良いのでガツンとプレイしよう。所々に入るオブリガートはフィンガリングを滑らかにしたプレイなので、やわらかいピッキングで。回からはソロだ。シーケンスをうまく使った激しいフレーズだ。指使いは前半はペンタトニック・スケールが中心だ。10、12、13フレットのみだから、変に完コピ

するよりもラフにアドリブっぽく弾いてみても良いだろう。後半のシーケンスのソロは熱くプレイして盛り上がろう。回からのソロは、クラシカルなシーケンス・フレーズから始まるこの曲最大のヤマ場だ。メロディアスなフレーズを覚えたい諸君にはとても勉強になるので、マスターしておこう。いかにもランディっぽいトリルの使い方や、レガートな上行フレーズなど、ランディのギターをマスターする上で必要なおいしいエッセンスがたっぷりなソロだ。速いパッセージなのだが、フル・ピッキングではないので、スムーズなフィンガリングをすれば大丈夫だ。最初はゆっくりめなスピードで、慣れてきたら普通の速さで弾くようにしよう。ベース、ドラムはリズム・キープも大切だが、盛り上がる箇所では、力強くメリハリを付けた演奏をするよう心掛けよう。







恵大を



Other Guitar 1

Guitar II

Bass

Orums

Vocal

Other





 \exists









D.S.





•



Other Guitar I Guitar II

Orums

Vocal

Other

Guitar I

Guitar II

Bass

Arums



NO BONE MOVIES

ノー・ボーン・ムービーズ

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley, Randy Rhoads and Lee Kerslake

この曲でも、イントロ等のギターのリフは、2本のギターによるユニゾンでのプレイだ。これはオーバーダビングで重ねられているものだが、譜面では1本にまとめて書かれているので注意してもらいたい。イントロの5小節目などでは2本が、違ったパターンを弾いている部分もあるので気を付けよう。イントロの2小節目、ギターの譜面にX印で書かれた音があるが、これは弦をミュートしながらピッキングしているものだ。この曲のリズムはミディアム・テンポの8ビートだ。ベースやドラムは比較的シンプルで演奏しやすいフレーズが多いが、リズムが乱れないように正確に、又力強くプレイしよう。©の部分はギター・ソロになっている。ここでソロを弾いているGt2は、ボトルネック奏法を行っている。これは左手の小指などにボトルネック・バーを付けて、スライ

ド奏法を行っているものだ。ボトルネック奏法は、オーブン・チューニングで行うことが多いが、この曲ではノーマルなチューニングでよいだろう。ディストーションさせたサウンドに少しディレイも掛けてプレイすると良いだろう。Gt2は、回からエンディングにかけてもソロを弾いている。ここはチョーキングを多用してゆったりとしたフレーズを弾いているものだ。速弾きなど行っていないので、弾きやすいソロではあるが、チョーキングの音程に気を付けて、一つ一つの音を丁寧に弾いてもらいたい。この曲の一番最後のエンディング部分では、少しスピードの速いフィルイン・フレーズも弾かれている。ここでは、もう1本別のギターもオーバーダビングで重ねられており、3本のギターによる演奏だ。

Vocal

Guitar I

Guitar

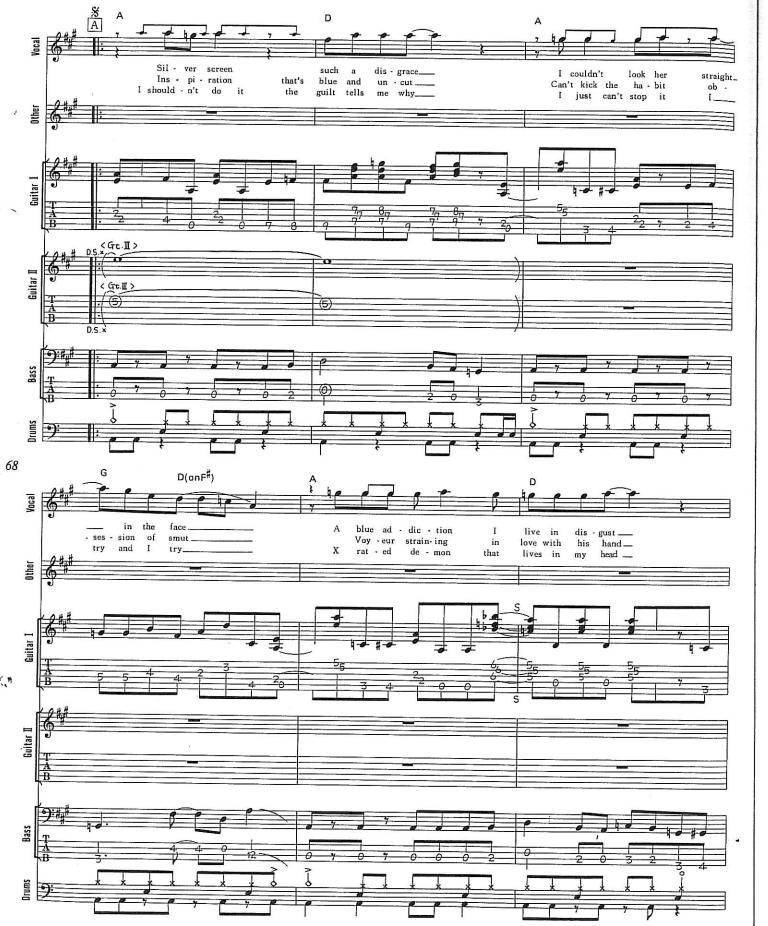
ocal

Bass



© 1980 by ESSEX MUSIC INTERNATIONAL, INC., New York, N.Y., U.S.A. and BLIZZARD MUSIC LTD., London, England Rights for Japan jointly controlled by TRO Essex Japan Ltd. and Watanabe Music Publishing Co., Ltd., Tokyo





Other

uitar I

Guitar

Bass

Drums

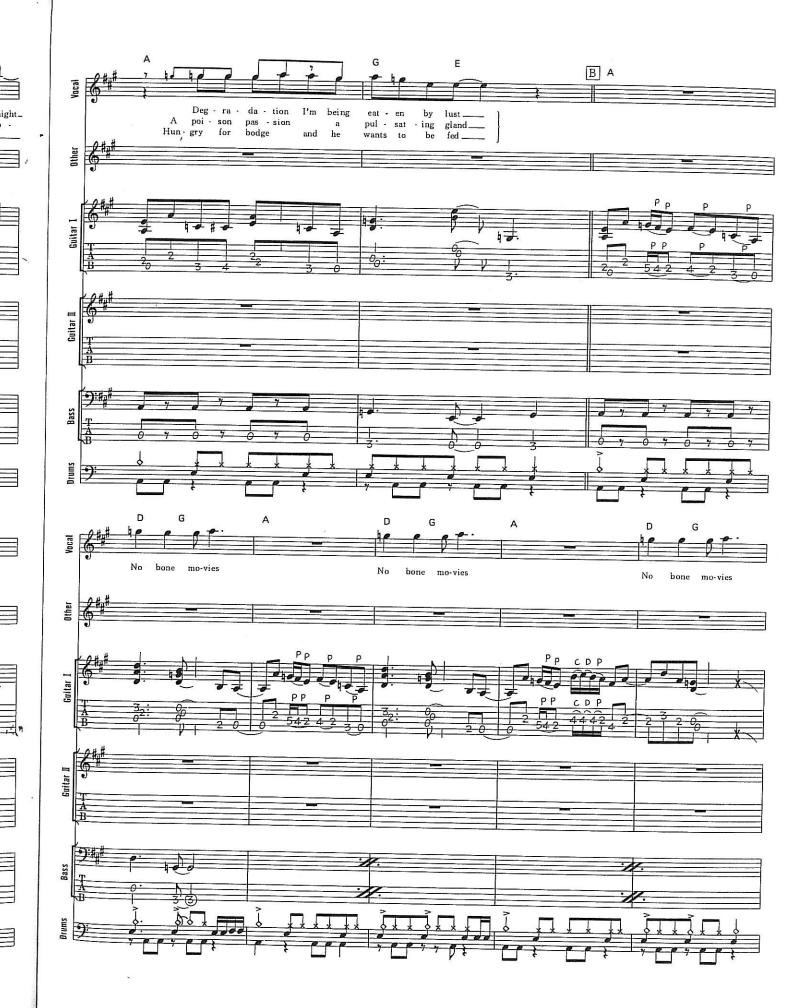
Vocal

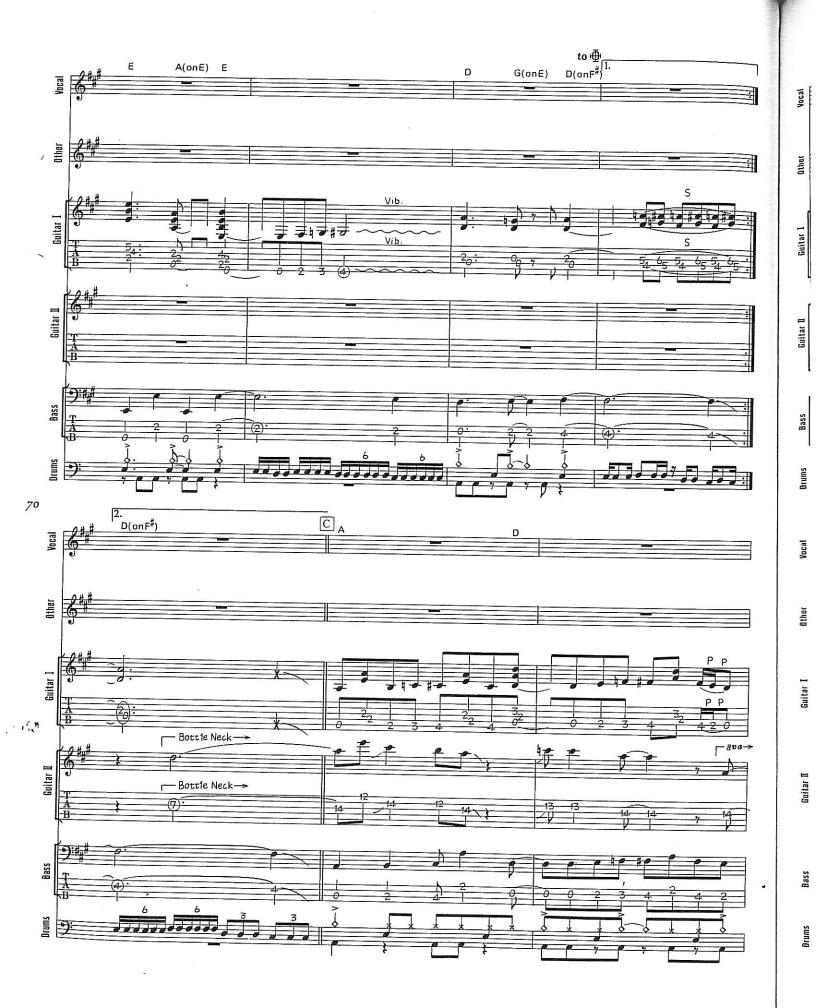
Other

_

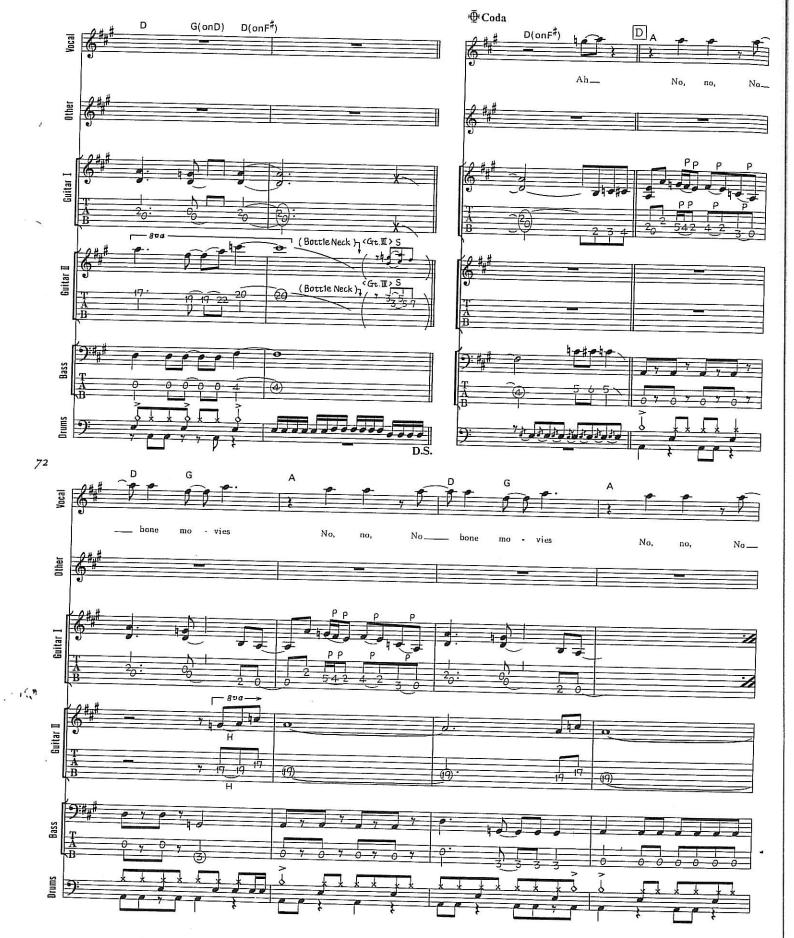
Rake

Огите









Other

Guitar I

Guitar II

Bass

ПППП В

Vocal

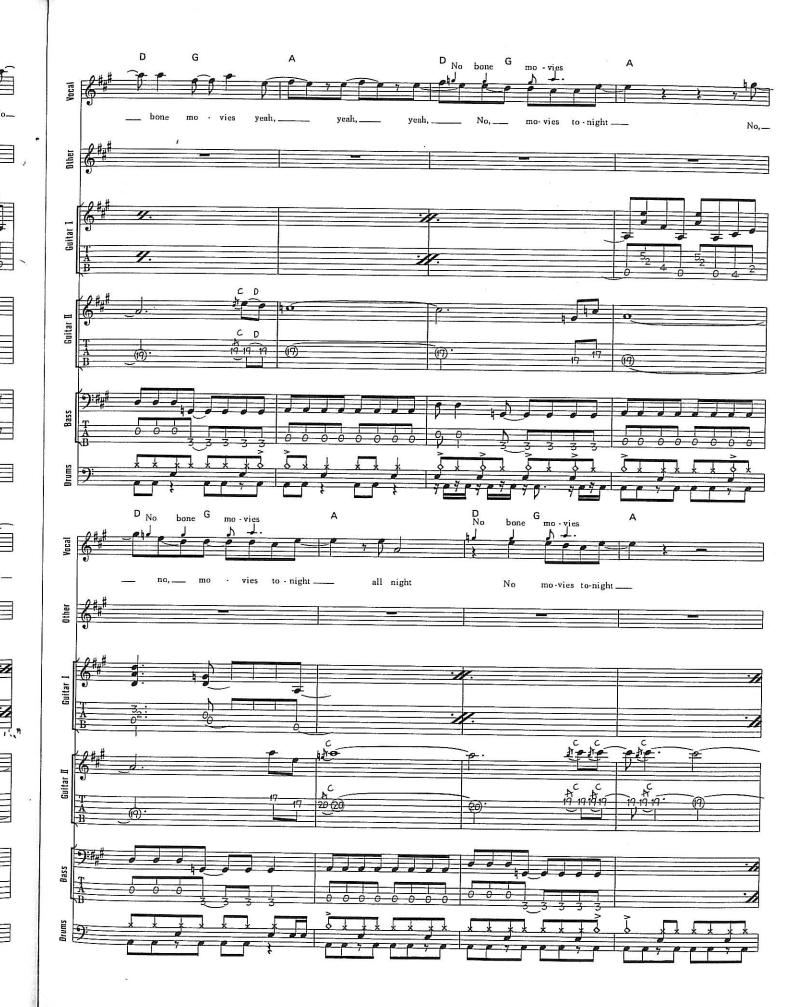
Other

Cuitar

Duiter II

Ė

Ĩ





Other

Guitar I

=

Guitar II

Bass

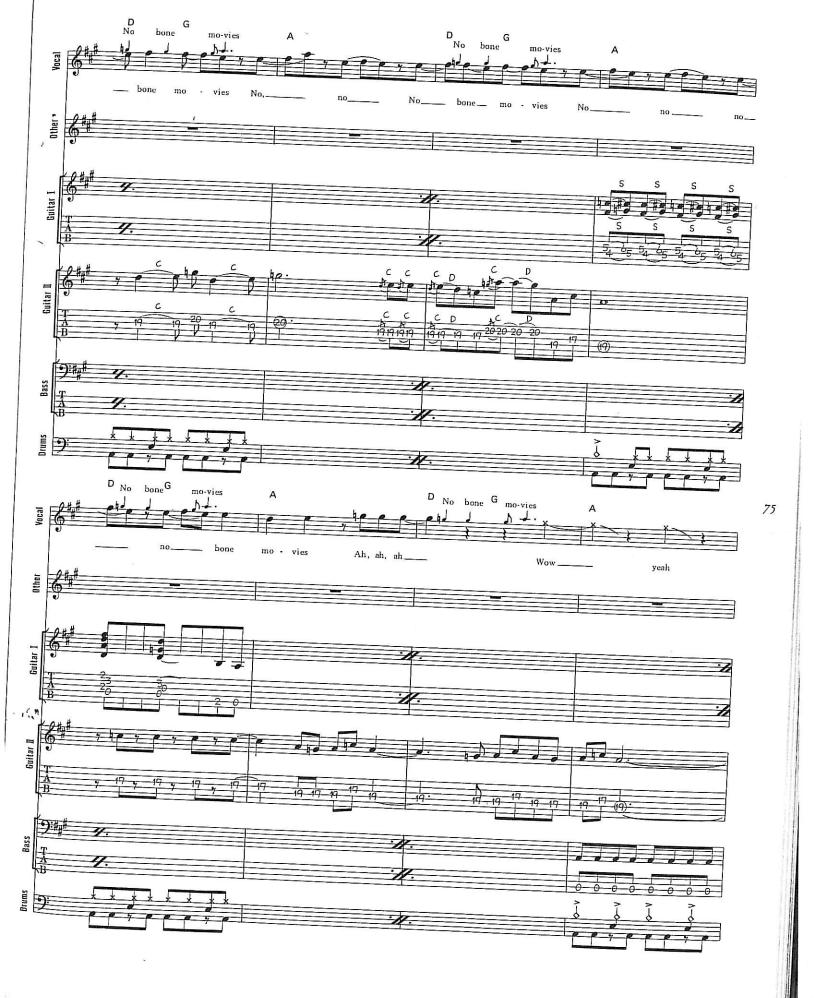
Ornms

Vncal

Other

1

....





.....

:

:





REVELATION(MOTHER EARTH)

天の黙示

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

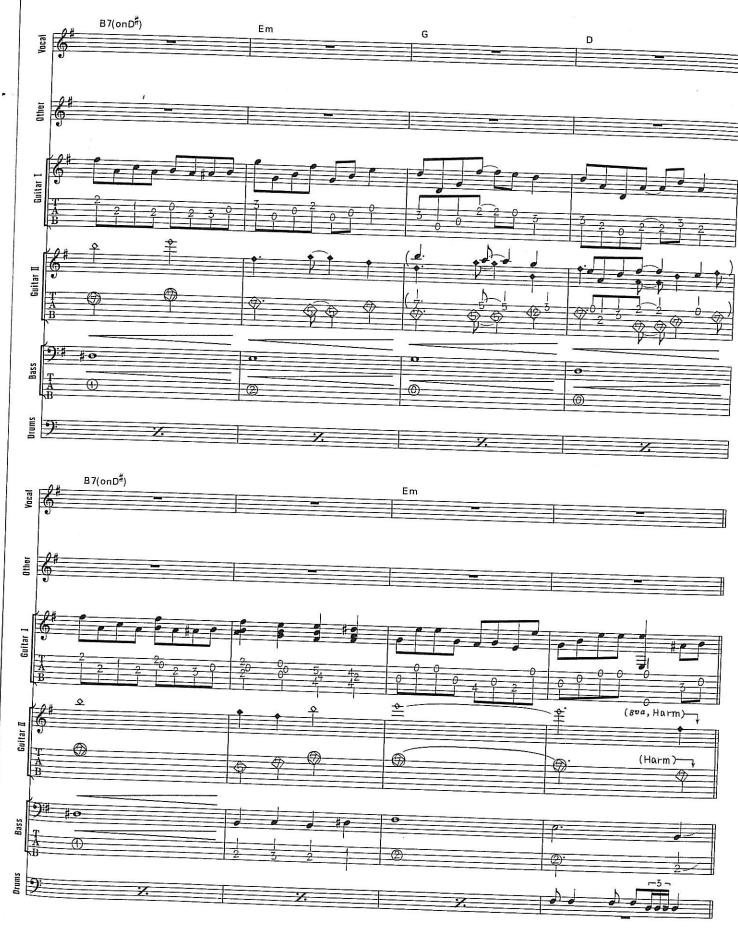
この曲はちょっとした大曲でありいくつかのパートに分けて演奏されている。使われている楽器もキーボードやギターは複数のものがオーバーダビングで重ねられている。日から回にかけてはアコースティック・ギターが弾かれている。これも2本がユニゾンで重ねられているようだ。ここは、アルペジオ奏法でプレイするようにしよう。この部分、Gt2はエレクトリック・ギターによるハーモニクス奏法だ。これは、タブ譜の位置の弦を左手の指で軽く触るようにしながらビッキングしているものだ。効果的なフレーズだが、クリアなサウンドで、丁寧にプレイしたい。日の部分のペースは、ヴァイオリン奏法のようにヴォリュームをコントロールしながら弾いているようだ。ここは、ヴォリューム・ペダルを使うと良いだろう。 回からはGt1もエレクトリック・ギターが使われている。この部分のペースは2音を使ったフ

レージングになっている。ここは、音がばらつかないようにしっかりとプレイしてもらいたい。 2回目の回ではポコーダーによるフレーズが入れられているが、 譜面ではこれをGt2のパートに入れておいたので、 ギターを使ってトライしても良いだろう。トーキング・モジュレーターなどのエフェクターを使えば同様のサウンドを出すことができるはずだ。 国はピアノのソロが弾かれている。ピアノの他シンセも重ねられているが、これはどれもストリングス系のサウンドを使ったものだ。 国からは、ギター・ソロとなっている。このソロは、2本のギターがユニソンで重ねられているが、まるで1本で弾いているように正確にプレイされている。 このソロではかなり速いフレーズも弾かれているが、ハンマリングやプリングなどのテクニックをうまく使って正確なリズムでプレイするようにしよう。

Vacal



ろう。 司様へ が弾 はど , # ゾン プレ てい 吏つ





Vocal

Other

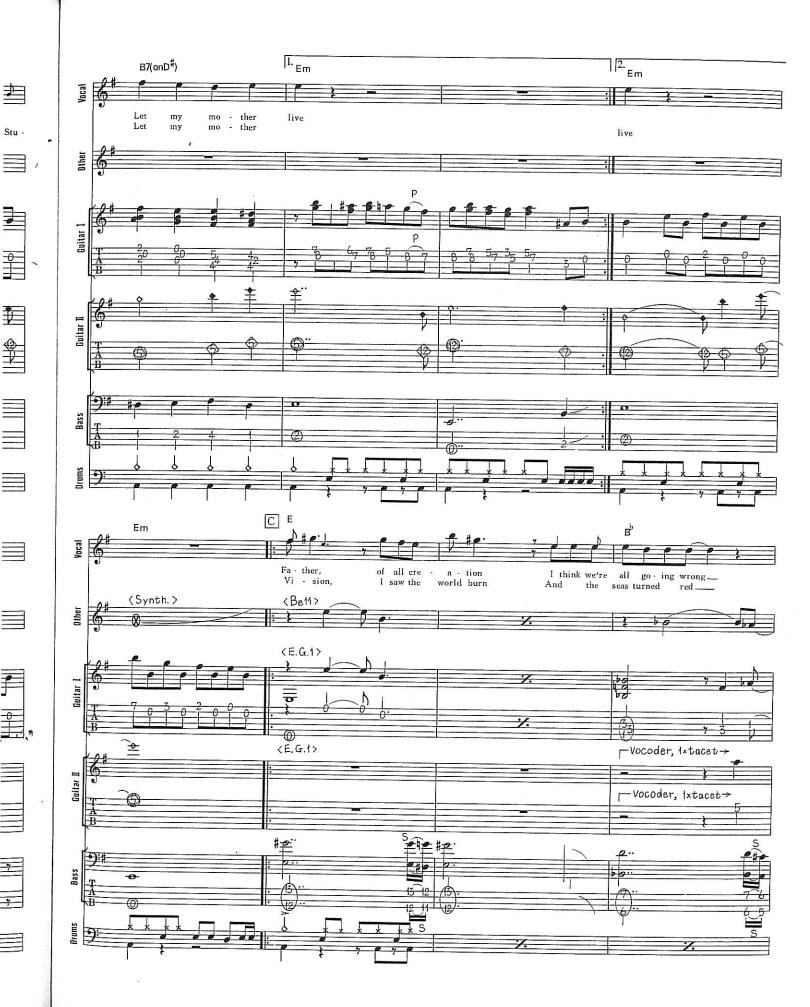
Guitar 1

Guitar II

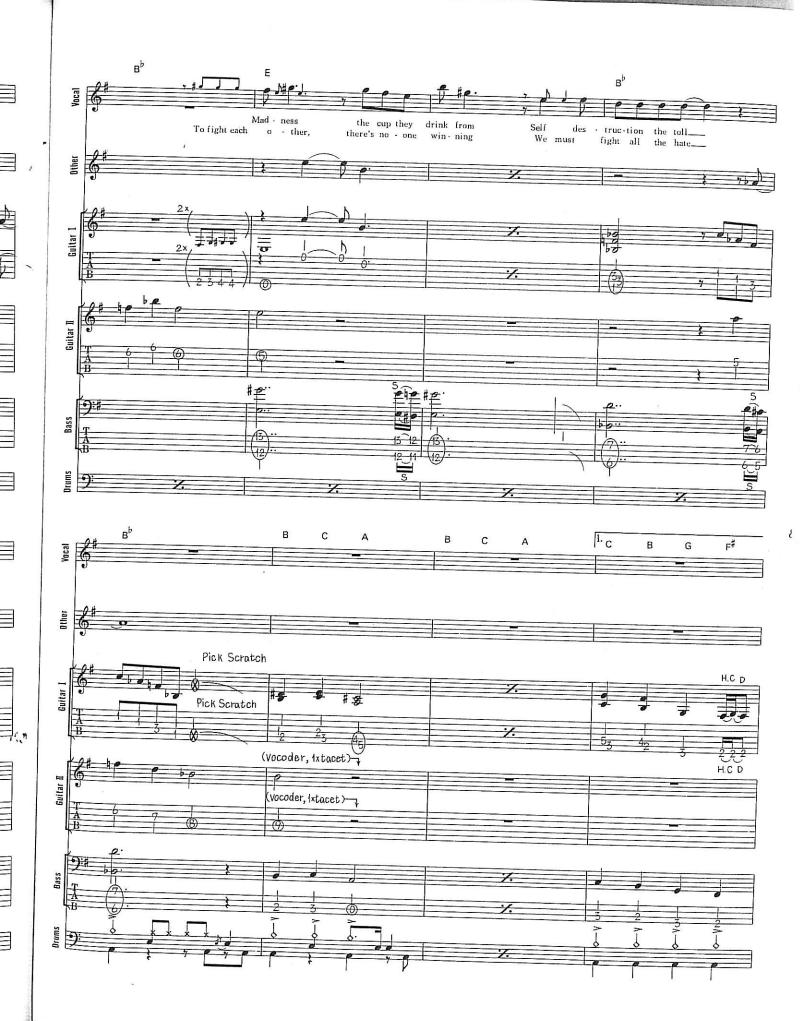
_

Race

_



























9.



STEAL AWAY(THE NIGHT)

スティール・アウェイ

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

R&R色の濃いアップ・テンポのハード・ドライヴィン・ナンバーだ。イントロのギターのリフはとても変わったパターンのものだ。ここは、こじんまりと弾くのではなく、指がバタバタするくらいダイナミックにプレイしよう。 正確さを求めるとノリがうまく表現できないので、ラフにパンチの効いたプレイをした方が、カッコイイはずだ。 国からのバッキングでも言えることだが、シングル・ノートの部分がアクセントになっているリフであるので、シングル・ノートのフレーズはタイトにプレイしよう。 国で出てくるオクタープ奏法は、4弦を左手人差指でミュートしよう。 国からのギター・ソロはアップ・テンポで、かなりスピーディーだ。3連符のフレーズでは正確なピッキングが要求され、16分のレガートなフレーズではスムーズなフィンガリングが求められるという、かなり計算された繊細かつ緻密な

ソロだ。また、ポルタメントのチョーキングや攻撃的なピッキング・ハーモニクスなどランディらしいテクニックが随所に見られるソロでもある。速いフレーズではあるが、決して弾けないと言うほどのテクニックではないので、マスターできると思う。ノリをうまくつかむことが大切だ。ギターの最後のコードE7(#9)は、ジミヘンがよく使うコードであるので、是非覚えておこう。ペースについてだが、単なるルート弾きではなく、かなりとんだフレーズが出てくる。アクセントとして、グリスをうまく使うとライヴなどで映えると思う。また、フィル・インにばかり気を取られていると、肝心なリズム・キープが疎かになってしまうので、タイミングには気をつけよう。ドラムに関しては、この曲のノリをリードしていく立場を認識して、イニシアチブをとった堂々たるドラミングをしよう。



© 1980 by ESSEX MUSIC INTERNATIONAL, INC., New York, N.Y., U.S.A. and BLIZZARD MUSIC LTD., London, England Rights for Japan jointly controlled by TRO Essex Japan Ltd. and Watanabe Music Publishing Co., Ltd., Tokyo





. . . ()



















